



# カトリック六甲教会 教会報

## 高齢化は希望のしるし

助任司祭 渡辺 徹郎 S. J.



ご復活おめでとうございます！イエスさまがご復活の後、天に昇られる際に弟子たちに告げたメッセージがあります。それは「全世界に行って、すべての造られたものに福音を述べ伝えなさい」というものです。洗礼によってキリストの弟子となった者は誰一人としてこの使命から除外されません。すべての人が、福音を述べ伝える使命をイエスさまから与えられています。

昨今、教会では高齢化が進んでおり、教会行事も担い手の減少に伴い縮小傾向にあります。信徒数が減少していく中で、教会運営を維持していくためにそれは致し方ないことでしょう。しかし高齢化はネガティブなことばかりでなく、それは同時に神の祝福でもあります。

このことを考えるうえで、昨年レオ 14 世教皇がシニア世代向けの司牧について述べた話が参考になります。ご自身も 70 歳でありながら精力的に活動する教皇様は、いろいろな仕事が一段落し、健康と自由な時間を享受する年配者を「アクティブシニア (原文: Young Elderly)」と呼ばれます。そして、多くの教会でその世代こそが熱心にミサにあずかり、さまざまな奉仕の担い手となっていることを踏まえ、年を取ることに對してよりポジティブな見方を持つように促されます。この世代は決して福音宣教の単なる受け手ではなく、むしろ福音宣教の担い手であり、教会の希望のしるしなのです<sup>※1</sup>。

六甲教会には 65 歳以上の信徒が約 700 人います。全信徒数が約 1600 人ですから、教会構成員の半数近くが 65 歳以上ということになります。この世代の多くの方々がアクティブシニアとして、年齢を重ねることにより「出来なくなったこと」ではなく「出来るようになったこと」に目を向けて、教会に自分の居場所を見出すならば、教会はより活気に満ちた場となるでしょう。教会が活気のある場となればなるほど、教会はより豊かな神への賛美の場となるはずで、貧しい人々への奉仕や教会内での奉仕、教会から足が遠のいている信徒へのアプローチはもちろんのこと、共通の趣味をもつ信徒同士で集まることなども立派な福音宣教となりえます。

教会の中でシニア世代がこれほど多くの割合を占めていることは、史上初の出来事でしょう。これは「時のしるし」であるともいえます。神と隣人への奉仕のうちに、第二の人生を教会で過ごしてみませんか？

※1 <https://www.vatican.va/content/leo-xiv/en/speeches/2025/october/documents/20251003-pastorale-anziani.html>

・教皇レオ 14 世による第 2 回国際高齢者パストラルケア会議参加者への講話。(クレメンホール 2025 年 10 月 3 日 [金])。(原文は英語ですが、希望者には広報部から和訳文をお渡しします。)

## 第 6 回小教区評議会議事録(要約)

日 時：2026 年 3 月 8 日（日）11 時 30 分～12 時 15 分

場 所：信徒会館 第 1、第 2 会議室

出席者：加藤信也主任司祭、堤 福生（議長）、荏原いずみ（副議長）、中村治也（副議長）、岩谷美禰子（書記）、蛭田 武（三日月会）、小田琢也（壮年会）、藤井敦子（婦人会）、辻原 華（教会学校）、井川直哉（地区会）、橘 道子（典礼部）、井川伸子（社会活動部）、大上尚子（広報部）、本下 稔・相原英彦（施設管理部）、宗行孝之介（周年事業プロジェクトチーム）、橋岡尚美（美化委員会）、西川 葉（事務所）

※配布物：・議事進行表

・大阪高松大司教区 2026 年度平和旬間、月間について

・2026 年度 掃除当番表

（教会報に添付はありません。）

### 1. 主任司祭の挨拶

本日は、今年度最後の評議会である。

新たに役員を引き継がれる方、今年度で役員交代をする方それぞれに対し、これまでの活動への謝意が述べられた。

### 2. 報告事項

(1) ハラスメント研修会（1/25 [日]） \*2 月号教会報参照

参加者 46 名。来年度に向け、引き続き学びを深めていきたい。

(2) 2026 年度小教区評議会行事予定調整会議（2/8 [日]）

役員・評議委員一覧と教会行事予定表の最終確認。

配布日程 3/14(土)、3/15(日)、3/21(土)、3/22(日)

上記日程で受け取られなかった方には、3/23（月）～4/4（土）の期間に事務所にて手渡しする。

(3) 灰の水曜日（2/18 [水]）10 時、19 時

参加者が多く（10 時ミサは約 100 人）、冊子「聖書と典礼」が不足するほどであった。

(4) 宣教・養成部講演会（3/1 [日]）（橘）

テーマ「東北地方のキリシタン」（講師：木鎌耕一郎氏）

参加者 87 名。計画中の巡礼の良い準備となった。

(5) 三日月会バス旅行（3/3 [火]）

岡山方面への日帰り旅行に 42 名参加。詳細は 4 月号教会報に掲載予定。

(6) その他各部・各会からの報告

・ハラスメント委員会（宗行）

2/8（日）開催。メンバーに渡辺神父様が加わられた。

・周年委員会（宗行）1/29（木）開催。

歴代司祭一覧表を調査し、掲載予定。各神父様へ 3 月中締切り予定でご寄稿を依頼中。

松村神父様からは原稿入稿済。

事務所から古い写真資料が大量に見つかった。写真説明について、三日月会会員へ協力を依頼する予定。

・婦人会（藤井）2/26（木）黙想会を企画、開催。

渡辺神父様の講話のあと、復活徹夜祭で使う蠟燭と受け皿を整えた。

今後も集まりを継続したい。

### 3. 協議事項

(1) 美化委員会について（橋岡） ※プリント参照（教会報には添付なし）

・美化委員会の委員を「教会掃除改善プロジェクトチーム」のメンバーで構成することとした。代表：橋岡尚美、メンバー：大上、長瀬、蛭田、浅野、三垣、川越

・新年度の信徒への配布物の中に、「2026 年度掃除当番表」を同封した。そのプリントの裏

面に掃除マニュアルを掲載している。当番の人だけでなく、多くの信徒に随時参加してもらえるようにしたい。

- ・清掃業者として、「外部委託」となっている業者名は、「セノパクス」。  
シナピスから独立して、就労許可を得た難民の皆さんを雇用する会社。清掃は毎月。  
業者と依頼内容について説明があった。
- ・ロボット掃除機の導入予定について説明があり、運用方法を確認した。

⇒この会議において、外部委託と掃除ロボットの使用が承認された。

(2) 平和旬間について(橘) ※プリント参照(教会報には添付なし)

2026年はアシジの聖フランシスコ没後800年である。

教区の標語「私は平和の道具～思い出し・ともに歩み・守る～」

内容はほぼ昨年準じるものと考えている。

#### 4. 今後の行事予定

(1) 黙想会～四旬節の準備のために～ (3/14 [土]) \*チラシ参照(教会報には添付なし)

(2) 祈りと音楽の集い (3/15 [日]) \*チラシ参照(教会報には添付なし)

(3) 教会学校卒業式・終業式・卒業合宿 (3/14 [土]～15日 [日])

卒業する6年生 6名。15日にアイススケートに行く予定。

(4) 教会学校 春の錬成会 (3/21 [土]～22日 [日]) リーダー不足のため中止。

(5) 聖木曜日(主の晩餐) (4/2 [木])

(6) 聖金曜日(主の受難) (4/3 [金])

(7) 聖土曜日・復活徹夜祭 (4/4 [土])

(8) 復活の主日 (4/5 [日]) (イグナチオ喫茶あり。お祝い会は、4/12[日])

(9) 教会学校入学式・始業式 (4/11 [土])

新1年生3名。うち1名は東京在住のため実質2名。

(10) 初聖体・祝福式、ご復活と初聖体のお祝い会(4/12 [日])

(お祝い会対象者:新受洗者、転入者、初聖体の子どもたち)

→教会事務から対象者に案内状を送付。

パーティー実施にあたり地区会への協力要請。

(11) 小教区評議会研修会 (4/18 [土])

(12) 春の墓参 (4/19 [日])

#### 5. その他各部・各会からの提案

・各倉庫の整理について(施設管理部より)

婦人会(藤井)の呼びかけで倉庫の整理など不用品の廃棄は少しずつ進んでいるが、関係者が一度集まって検討を進めるべきとの提案があった。

→ 4/18(土) 13:00 第1, 2会議室に集合するよう、呼びかける。

呼びかけ対象:婦人会、典礼部、(教会学校)、施設管理部、防災委員会、美化委員会  
各部・各会から、事情に詳しい者が出席。

○小教区評議会研修会 4月18日(土) 10:00 於信徒会館第1・2会議室

⇒新旧評議員による2026年度教会活動方針の検討。

○第1回小教区評議会役員会 5月3日(日) 11:30

○第1回小教区評議会 5月10日(日) 11:30 於信徒会館1・2会議室

以上

小教区評議会 役員・評議員

主 宰	主任司祭		
議 長	中村 治也		
副議長	林 良一・橘 道子		
書 記	三木 宏夫・園井 裕子		
<b>評 議 員</b>			
信 徒 会 (各会会長など)		専 門 部 会 (コーディネーター)	
三日月会	蛭田 武	典 礼 部	中西 裕樹
壮 年 会	小田 琢也	宣教・養成部	松平 麻也
婦 人 会	藤井 敦子	社会活動部	井川 伸子
青 年 会	小阪 智之	広 報 部	小坂田泰宏
中高生会	渡辺 徹郎神父	施設管理部	相原 英彦
教会学校	辻原 華	財 務 部	堤 福生
地 区 会	井川 直哉(役員代表)		

財務委員会 堤 福生	墓地委員会 鍵山 浩三	防災委員会 松井 理直	美化委員会 橋岡 尚美
図書委員会 飯塚 和彦	ハラスメント対応委員会 宗行孝之介	周年事業プロジェクトチーム 宗行孝之介	

地区会 役員

		地区長 ブロック長	副地区長	副地区長
7 地区	灘北 1	福島きよ子	浅野真理子	井上 陽子
	灘北 2	藤井 敦子	小田 琢也	三嶋 敬子
	灘南	山縣 晴代	西 春美	奥野 康子
	灘西・中央	折川 節夫	王子 麗花	
	東灘北 1	橋岡 尚美	森 道子	小林喜世子
	東灘北 2・芦屋	井川 直哉	高木 昌要	増田 瑠美
	東灘南	河野 光成	松平 麻也	園井 裕子
3 ブロック	神戸西	千原 理		
	北・三田	仲本志のぶ		
	阪神	酒井 幾美		

【お詫びと訂正】

3月末に信徒の皆様配布した「行事予定表」の表紙ページで、灘南地区の役員のお名前に誤りがありました。お詫びして訂正します。なお、上記一覧は修正済みです。

奥野 泰子さん → 奥野 康子さん

## 小教区評議会新議長に中村治也氏 任期は2年



この度、新年度の評議会議長を拝命いたしました中村治也です。未熟ですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

1992年のご復活の主日にカトリック六甲教会で洗礼の恵みに与り、その後、住居が神戸を離れた時期を経て、2004年に家族で現住所に転居した時から、改めて六甲教会のお世話になっています。当時は、このような大役を務めることになろうとは思いませんでした。

拝命することが決まった後の2月の主日で、加藤神父様の「地の塩、世の光」の福音とお説教を拝聴しました。そこで教会の評議会の役割はまさしく「塩」と「光」かと、改めて気づかされました。“塩は溶けて見えなくなる。光（小さな燭台の灯）は自らではなく家全体（＝教会）を照らす。” 評議会もその役割を果たすことで、教会に集う皆さまに少しでも役に立つことになれば幸いです。

加えて、私には心強い仲間がいます。新たな評議会役員として、副議長の橘さん、林さん。書記の三木さん、園井さん。また、各専門部会のコーディネーターや信徒会会長などの方々、および各種委員会の代表の方々は、皆さまにお配りした新年度の教会カレンダー冊子でご紹介しています。

これからの一年、皆さまのお祈りとご協力をお願いいたします。

### ≪ 婦人会黙想会 ≫ 2月26日

婦人会（藤井敦子会長）の企画で、2月26日（木）の午後、黙想会が開かれました。黙想会は婦人会としては初めての試みとのことでしたが、簡単な周知にもかかわらず、20人余りが集いました。「婦人会の集まりへのお招きは初めて」という渡辺神父様が黙想指導に当たられました。

講話では、イグナチオ・デ・ロヨラの短い動画の映写があり、イグナチオ自身は騎士として「功成り名を遂げる」べく軍務についていましたが、負傷し療養生活を送るうちにイエスを知ったという経緯が紹介されました。さらにイグナチオの霊性の紹介があり、“神のみ旨を聴くこと”、“悪霊を避けるには”など、日常生活での具体的な例を挙げて話をされ、時に笑いも起こり、和やかな時間を過ごしました。

黙想会のあとは、藤井会長の呼びかけで、復活徹夜祭で用いるロウソクを整えました。垂れたロウを1本1本こすり取り、お湯にくぐらせタオルで拭いて数を数えてしまう…。これは有志がたった一人でやってくださっていた手仕事だそうですが、こんなご苦労があったとは。この日は皆で手分けして整えることができました。婦人会黙想会は定期開催ではないとのことですが、次も期待しています。（三浦 智子）

### ◆大阪高松大司教区で9年ぶりの助祭叙階式◆

3月20日（金・祝）午後1時より、大阪高松カテドラル聖マリア大聖堂で、大阪高松大司教区の神学生2名の助祭叙階式が行われました。教区としては2017年以来の9年ぶり。前田万葉大司教は、教区全体にとって大きな喜びとされました。叙階は次のお二人。

バルトロマイ 丹生信雪神学生（新任地：大阪南地区 堺B協力）

ペトロ ゲン アン サオ神学生（日本語研修 [福岡：サン・スルピス会]）

（ ）内は大阪高松大司教区の人事異動（第2次）。着任日は4月19日付）

新年度の行事予定表等と共に、新しい「掃除当番表」を同封して3月下旬に信徒のみなさまに配布させていただきました。ご一読いただきましたでしょうか。

当番表は、清掃奉仕に応募して下さった有志の方々が作ったグループと従来の地区会のグループ、さらに外部委託業者※2（毎月）と定期清掃（2か月に一度）を年間の週に割り当てたものです。信徒グループや地区会のみなさんは、年に3回程度のご奉仕となります。

そして、以下の点が大きく変わりました。

- ・お掃除ロボットを導入・・・主聖堂と小聖堂の床を清掃（祭壇を除く）
- ・外部委託業者による清掃・・・2か月に一度から毎月に変更

この変更については、小教区評議会第6回会議（3月8日開催、議事録 p.3参照）において承認を得ることができ、すでに稼働しています。

これにより、聖堂の床掃除はお掃除ロボットに任せることが出来ますので、当番のみなさんは、聖堂内では祭壇周りや座席の埃取りのみになります。また、聖堂外では特にトイレ、それから階段、信徒会館ほかの清掃に注力できるようになります。

当番表の裏面には「教会掃除当番マニュアル」を付けました。美化委員会ではこれまでの掃除方法や使用器具、洗剤などを見直し、どなたでも掃除に携わっていただけるようにマニュアルを作りました。少々詳しくすぎるかもしれませんが、これまで「慣れ」により適当になっていたかもしれない清掃の仕方の見直しにも役立つと思います。

なお掃除当番は一応日程を決めてはいますが、今年度当番に登録されていない方も、是非いつでも自由に参加いただき、一緒に私たちの教会をきれいに保っていきましょう。

4月から始動するこの仕組みは六甲教会としては初めての試みです。アドバイスやご意見があればどうぞお聞かせください。教会事務横のレターケースに美化委員会専用のケースを作りました。メモのご用意もあります。

新しい掃除当番体制に、ぜひともみなさんのご協力をよろしくお願いいたします。

※1 「教会掃除改善プロジェクトチーム」から「美化委員会」に改称されました。

※2 前年度まで大阪シナピスに依頼していましたが、今回よりシナピスからの紹介で就労許可を得ている元難民の方が働く、株式会社セノパクスに依頼することになりました。

## 六甲学院生の奉仕活動で、窓はぴかぴか、庭もすっきり



六甲学院では、学校の方針の一つで種々のボランティア活動を行っているところから、「春の社会奉仕活動」として今回、六甲教会での奉仕活動の申し出がありました。

3月10日に（火）4人、翌11日（水）には10人の中学3年生から高校2年生までの生徒たちが、先生の引率で来てくれました。10日は図書室（写真左）、各会議室、イグナチオ



ホール、信徒会館の窓と網戸、また外からステンドグラスを拭いてもらい、ピカピカになりました。11日は庭の草抜き、木の剪定など（写真右2枚）に頑張ってくれました。両日とも来てくれた生徒さんも一人おられ、黙々と作業をしてくれました。

終了後のお茶とお菓子をとても喜んでくれました。

## 教会学校便り いじめ学習会と、6人のリーダーに“ありがとう”の卒業式

2月28日(土)は、いじめについてのお話を信徒で弁護士の赤木潤子さんをお招きして聞きました。

「いじめとは何か」という問いから始まり、自分たちにできることは何かを一人ひとりが考える時間となりました。子どもたちも真剣な表情で話に耳を傾けている姿が印象的でした。

お話を通して、神様やマリア様がいつも見守ってくださっていることを改めて感じ、そのことを忘れずに過ごしていこうとする子どもたちの様子が見られ、私自身も大切なことに気づかされるひとときとなりました。

3月15日は卒業式でした。今年は6名の子どもたち(写真前列)が教会学校を卒業しました。

卒業式では、子どもたちが6年生と一緒にしたい遊びを楽しんだり、6年生自身がリーダーとなって在校生と関わったりと笑顔あふれる時間となりました。これまでの成長を感じる場面も多く、嬉しさと少しの寂しさを感じながら、その姿を見守っていました。



教会学校の後には卒業合宿を行い、みんなでお好み焼きを作ったり、アイススケートに出かけたりと、最後まで楽しい思い出を重ねることができました。

また、子どもたちからリーダーへサプライズで色紙のプレゼントがありました。心のコもった言葉に触れ、嬉しさと涙が溢れそうになりました。子どもたちの笑顔に私たち自身が支えられているのだと改めて感じました。

教会学校は卒業となりますが、これからも教会とのつながりを大切にしながら、それぞれの道を歩んでいってくれることを心から願っています。(辻原 華)



教会学校を卒業する6年生リーダーたちに向けて、子どもたちからのお礼の寄せ書き。



### 【社会活動部の今月の予定】

4月 1日(水) 10時 手芸の集い 第1、第2会議室

4月11日(土) 10時半 炊き出し 小野浜グラウンド(中央区小野浜町3)。  
一緒に車で行かれる方は 六甲教会に10時集合です。教会事務に事前にご連絡下さい。

4月20日(月) 9時半 ともしび会 教会台所 (児童養護施設の子どもたちへのケーキ作り)



写真は、3月の卒園祝いチョコレートスポンジケーキ。

## 今、私たちの食卓に並ぶ食べ物は、本当に安全なのか？ ～小山博威さんのお話より～

2月28日(土) カトリック住吉教会で14時から「日本の農業と食料安全危機」というテーマで神戸市立中学の理科教員である小山博威さんにお話をいただきました。小山さんは、カトリック信者ではありませんが、ほとんど毎土曜日、カトリック社会活動神戸センターが中心になって行われている炊き出しにボランティアとして参加していただき、その時に聞いたお話が大変興味深かったので、今回学習会の講演を依頼する運びとなりました。

まず、衝撃だったのは、海外に比べて食品の自給自足率がカロリーベースで38%とかなり低く、パンや肉類、飼料などはほとんど海外から輸入されているということです。このような現状が続くと仮に将来核戦争が起きた場合、日本の人口の約6割が餓死する、ということでした。

今、日本の農業は食料危機に立たされおり、その要因は、1. コロナ、2. 中国からの食料輸入の急増、3. 気候危機による不作、4. ウクライナ戦争によるエネルギー、原材料の高騰などの4つのクワトロショックだと言われています。輸入元の国が不作になったり、戦争などによって輸入ができなくなったりすると、食料不足になり、価格も高騰してきます。

また、輸入柑橘類や穀物にカビや虫を防ぐ目的で散布されるポストハーベスト農薬(収穫後の農薬)は、収穫前の農薬に比べ残留性が高く、一部に発がん性の危険もあり、健康に悪影響を及ぼすとも言われています。

このように自給率が低い日本は、海外に農作物を頼らなければならないものの、その農作物には多くの農薬が使われています。日本の農業を救うために、そして自給自足を高めるための打開策として減少している農業就労人口をカバーする機械導入政策や最新の技術を使った大型農業プロジェクトが推進されていますが、大量の農薬と化学肥料を使う事になるので日本の基準を満たしているとはいえ本当に安全なのかは懐疑的です。

また国産牛より安い輸入牛肉には日本では使用が禁止されている成長促進ホルモン剤が投与され基準値内であれば安全とされていますが、EUなどは健康上発がん性や、心疾患などのリスク懸念から、使用や輸入を禁止しているそうです。要するに金持ちは、ホルモン剤が投与されていない安全な国産の高級牛肉を食べ、低所得者は、スーパーに出回っているホルモン剤が投与されている安い海外からの牛肉を食べているのが現状のようです。

今は、化学的に合成された肥料や農薬を避け、堆肥などで土作りを行って栽培された体にいい有機野菜が売られていますが、市場に出回っている多くの野菜に比べ、生産量も少なく値段も少し高めです。しかし、私たちの健康のために、手間暇かけて苦心して作られているのだということもよく理解できました。最近では、家庭菜園をしている人も増えてきましたが、この学習会を通じて日本の農業の危機を知り、少しでも私たちが自分たちの健康を維持するために家庭菜園をするのも一つの自給自足に繋がっていくような気がしました。買い物をするときに、安いと思って飛びつくのではなく、商品の表示を見て、どのような添加物が入っているか、生産地はどこなのかというようなことにも、より一層関心を持つようになったような気がしました。

井川伸子(六甲教会社会活動部)

## ≪ 三日月会日帰りバス旅行 ≫ 雨模様でも満足だった岡山の一日

3月3日（火）雛祭りの日に、三日月会恒例の日帰りバス旅行を実施しました。参加者は加藤神父様始め、42名でしたが、平均年齢78歳と高齢に関わらず、皆さん元気でした。

天候はあいにくの雨模様。最初に訪れたのは、昭和60年に岡山で最初に指定された「街並み保存地区」の勝山町。白壁の土蔵、格子窓の商家が立ち並ぶ古い町並みを小雨の中散策しましたが、多くの商家の軒先を入ったところにはお雛さまが飾られ、古くは室町、江戸時代の人形もあり、さらに軒下にぶら下がる「暖簾」もいろいろなデザインがあり、我々の目を楽しませてくれました。

美味しい昼食をとった後は、明治40年に完成した二階建て木造建築の「旧遷喬尋常小学校」に行きましたが、玄関と職員室、講堂の中央棟から左右対称の教室棟は素晴らしいものでした。構造物には随所に工夫がなされ、約18,000円（当時の価格）の工事費は、当時の久世町予算の3倍近い巨額なものでした。

旅の最後は、半世紀の歴史を持つ岡山最大級の観光農園で「イチゴ狩り」をしましたが、このイチゴは「全国イチゴ選手権」でも銀賞、銅賞に輝く美味しいイチゴで、皆さん別腹にたらふく食べられていました。1箱5万円のイチゴもありましたが、さすがここは立ち入り禁止でした（笑）。

とにかく全員、怪我や体調が悪くなった方も居ず無事教会に戻って来られたことに、神に感謝！！

（三日月会会長 蛭田 武）



勝山町の町並み



イチゴ狩り



旧遷喬尋常小学校講堂での集合写真

## ≪ 祈りと音楽のつどい ≫ (3月15日)

四旬節第4主日（ことしは3月15日）は10時のミサで加藤主任司祭はめずらしいバラ色の祭服を着用されていました。知らなかったのですが、この日はレターレ（の主日）というのだそうです。四旬節も山場を越え、そろそろご復活が近づいてくる、待ち遠しいね、というような意味のレターレ（歓喜＝ラテン語）の主日。バラ色の祭服はその「わくわく感」を象徴しているのです。

折りしも午後には「祈りと音楽の集い」が開かれ、オルガンの桑山彩子さんの演奏を聴きました。プログラムはメンデルスゾーンの前奏曲にはじまり、バッハ、ブラームスと佳境に入り、最後にまたメンデルスゾーンのソナタ。格調高いなかにも優しさを湛えた、いかにもレターレにふさわしい曲の数々と感じられました。

桑山さんはエリザベト音大卒、フランスで活躍後帰国され、現在京都カトリック河原町教会のオルガニストでもあります。ご自分で丁寧な説明を加えて演奏され、早春のひとときを心豊かに過ごすことが出来ました。（詫 洋一）



## 園芸だより（四旬節によせて）

四旬節が近づくと信徒会館入り口にレンテンローズ（四旬節の花）が咲き始めます。昨夏の猛暑で栄養を取る葉っぱが枯れてしまい、今年の開花を心配しましたが白と赤紫の花が美しく咲いています。園芸便りを読んで下さる頃には六甲教会ならではの花壇、美しい桜の花が咲き誇ります。リニューアルされた藤棚の下では是非ご復活祭のお祝いと共に花見をお楽しみください。



随分前になりますが、ある修道院で受難聖週間の式に与ったことがあります。その時、祭壇の前に置かれている「棘の冠」を目にしました。3～4センチ長さの細くとがった棘が沢山ついた枝で編まれた冠でした。バラの棘が指にちょっと触れるだけでも痛みを感じ血が滲みます。その棘は中東の国々で沢山の果をつける柑橘類で作られていました。その冠を押し被されたキリストが十字架を背負わされ、何度も鞭打たれながら、倒れては起き上がりゴルゴタの丘まで歩かれた姿を想像する私にとっては「十字架の道行き」は途中で倒れそうになり、最近まで参加出来ませんでした。私達なら棘がこめかみに差し込まれた瞬間に気を失ってしまいます。

教会の敷地内には聖書の中に出てくる植物が幾つか植えられています。毎年12月に収穫しているレモンもその一つで、鋭い棘をつけています。西洋では柑橘類は寒いため育ちません。花はかぐわしい香りを放ち、実の美味しさにあこがれた貴族達は館の庭にオレンジを栽培する温室「オレンジアリー」を競って作りました。オレンジの花が咲く6月に結婚式「ジュンブライド」を挙げる花嫁の髪飾りやブーケにこの花を使い喜びを祝います。今の季節になると「戒めと喜び」このバランスこそが「生きる力」を教えて頂いていると改めて感じます。どうか美しい自然に恵まれた中東の国々に、一日も早い平和の訪れを祈る四旬節でした。

施設管理部 貴島せい子

長年、教会の仕事を多岐にわたり誠心誠意尽くされ、私達と共に歩んで下さった山脇信夫様が、昨年12月に帰天されました。感謝と共に改めて哀悼を申し上げます。

### ●●●「枝の主日」の準備

「枝の主日の準備」にあたり、毎年、教会敷地内のソテツの葉を切り落としています。例年、施設管理部で行っていましたが、今年から「典礼部と施設管理部」合同で行うことになりました。

3月26日（木）9時から剪定を行いました。加藤神父様、渡辺神父様をご参加下さり、教会学校の子供たちもお手伝いしてくれました。事前に葉の数を数えておき、作業当日は一枚一枚葉柄の基部から切り落としていきます。10時から持ち手作りのメンバーが庭に集まり、ぽつぽつ咲き始めた桜の木の下にビニールシートを敷いて枝の整理を行い、「枝の主日」に祝別していただく、美しい400本の枝を仕上げました。今年初めて参加して下さった方も増え穏やかで楽しい一時になりました。11時半には予定通り、無事に完了致しました。



左上 枝の剪定  
中 枝の剪定  
左下 枝の裁断  
右 枝の整理

## 講演会

# 「東北地方のキリシタン」

宣教・養成部で5月に予定している東北巡礼（チラシ参照）の準備のため、3月1日（日）10時のごミサのあと、「東北地方のキリシタン」について神戸松蔭大学 木鎌耕一郎教授にご講演いただきました。以下お話の要約です。

東北地方のキリシタンの特徴は、西日本などの他の地方に多く見られるような、派遣された宣教師によって伝道が始まった「上からの伝道」ではなく、後発的な時期に東北地方に移り住んできた信者、京・大坂地方で洗礼を受けて東北へ戻ってきた信者によって教えが広められた「下からの伝道」である

ことでした。東北地方に信者が移り住んできたことには、江戸幕府の鉱山開発の政策と大きな関係がありました。鉱山の開発を進めるために幕府が必要としていたのは近代の効率的な精錬技術と労働力で、多くの鉱夫を確保するために取った管理体制は、鉱夫は手形が無くても、所持する鉱石を検分するだけで関所を通過させることができ、犯罪者が鉱山に逃げ込んだとしても事情によっては鉱山で働かせる等、鉱夫に対して甘い規則（御山例五十三ヶ条之事）を定めていました。多くの鉱山が点在していた東北地方にも、各地から禁教の取り締まりを逃れてキリシタンが移り住んで働き、そこで潜伏しながらキリシタン集団が形成されました。キリシタンの受難と殉教の時代である1614年以降、東北地方のキリシタンが殉教した場所は、宮城県仙台市の広瀬川河畔、米沢（山形県）、大籠



（岩手県）、米川（宮城県）などがあり、5月の巡礼ではこれらの内、大籠と広瀬川の殉教地を訪ねます。

講演の最後に木鎌教授は、聖人や福者として認定されていない、無名の殉教者に心を寄せる今回の巡礼は、「聖徒の交わり」を考える上で意味のあることであり、また講演会開催日が四旬節第二主日に当たっており、四旬節中の祈りの助けにもなると締めくくられました。

（宣教・養成部 橘 道子）

### ・東北巡礼の訪問先教会

2026年5月15日（金）～16日（土）

1日目：大籠キリシタン殉教公園、

カトリック大籠教会訪問

2日目：仙台市広瀬川殉教地、

カトリック北仙台教会訪問

申込書は風防室テーブルか、教会事務室においてあります。

締切りは4月12日（日）です。

**東北地方のキリシタン殉教地を訪ねて**

▶ 期 日：2026年5月15日（金）～16日（土） 一泊二日

▶ 参加費：58,500円（傷害保険500円含む）

▶ 同行司祭：加藤信也神父様

▶ 申し込み締め切り：4月12日（日） ※募集定員人数：18名

◆ 参加ご希望の方は、下記申込用紙に参加費を添えて教会受付までお申し込みください。

◆ 申し込み締め切り後は、返金できない場合がありますので、ご了承をお願いします。

スケジュール ※交通機関・道路状況等により変更になる場合がございます。

5月15日 （金）	<p style="background-color: yellow; margin: 0;">神戸空港（国内線ターミナル）6：30 集合</p> <p>7：45 →→→ 仙台空港着 9：05 大籠キリシタン殉教公園（大籠教会ミサ） 【昼食】Ark 館ヶ森 【宿泊】ホテルルートイン登米</p>	
5月16日 （土）	<p>ホテル9：00 発 → 石巻方面へ → 宮城県歴史博物館ミュージアム（サン・ファン館） 【昼食】牛タン炭焼き利久 松島 → 仙台市内へ 広瀬川殉教地 → カトリック北仙台教会（ミサ） → 仙台場外市場 社の市場 → 仙台空港着 18：00 仙台空港発 19：30 →→→ 神戸空港着 20：55</p>	

【旅行主催・実施】カトリック六甲教会  
【旅行企画・実施】南海国際旅行 西日本営業部 コーポレート営業グループ 携帯：090-8218-9742（会社：06-6643-0710）  
大阪市東区難波中1-10-4 南海5K難波ビル8階 総合旅行取扱管理者：蓮池良幸 担当：能勢俊史

---キトリ---

「東北地方のキリシタン殉教地を訪ねて」参加申込書

参加費（58,500円）を添えて受付までお申し込みください。4月12日（日）締め切りです。

氏名（年齢）	電話番号
（ 姓 ）	本人：
住所（〒 ）	緊急連絡先： <span style="float: right;">本人との関係（ ）</span>
シングル（ ）	ツイン（ ）
※ツインルームをご希望の方は、同室者のお名前をご記入ください。	

## 2026年4月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
3/29	3/30	3/31	1	2	3	4
受難の主日 (枝の主日)			◎水曜班	聖木曜日 主の晩餐の夕べ のミサ 19:00	聖金曜日 (大斎・小斎) 聖地のための 献金 主の受難の 祭儀 19:00	聖土曜日 復活徹夜祭 19:00
5	6	7	8	9	10	11
復活の主日 手話付きミサ 10時ミサ 洗礼式(10時ミサ中) イグナチオ喫茶 (10時ミサ後) 地区役員会 12:30				◎木曜班		教会学校入学式・ 始業式 社会活動部炊出し
12	13	14	15	16	17	18
復活節第2主日 (神のいつくしみの 主日) 子どもとともに 捧げるミサ 10時 初聖体・祝福式 10時ミサ中	ご復活と 初聖体 お祝い会 (10時ミ サ後)				◎外部委託	小教区評議会 研修会 10:00
19	20	21	22	23	24	25
復活節第3主日 春の墓参						聖マルコ福音記者 典礼部会 10:00 ◎土曜班
26	27	28	29	30	5/1	5/2
復活節第4主日 世界召命祈願の日 施設管理部会 11:30 ◎日曜班 A			昭和の日 (教会事務室 休み)			(教会報 5月号 印刷)

◎印は掃除当番グループ/地区 (午前7時時点で気象警報が発表された場合は中止)

### 【編集後記】

◇ことしの WBC では侍ジャパンはお茶をたてる仕草をチームのラッキーサインとしていました。日本の文化である茶道には、キリスト教の影響がみられるという説があります。お茶席の回し飲みが最後の晩餐、茶室へのにじり口は「狭き門より入れ(マタイ7章13節)」という聖書のことばによる、とか。確たる学説ではないのですが東西の文化はどこかで馴染んでくるものなのですね。東西が理解し合えれば戦争はなくなるはず。復活祭にあたって祈るのみです。(余)

次回5月号の印刷・発行は5月2日(土)10時半からです。

原稿は毎月15日ごろまでに、教会受付へご持参いただくか、FAX、メールでお願いします。

([renraku@rokko-catholic.jp](mailto:renraku@rokko-catholic.jp))。

皆さまからのご寄稿をお待ちしています。

・教会ホームページ(右のQRコード)では、カラーで教会報が御覧になれます。

### カトリック六甲教会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21

電話 078-851-2846

FAX 078-851-9023



発行責任者 加藤 信也  
編集 広報部